第３回　伊勢崎市部活動地域移行検討委員会　議事録

期　日　令和６年２月２８日（水）１０：００～１１：３０
会　場　絣の郷　円形交流館　第１・２交流室
出席者　武井義夫委員、平林知巳委員、堀田享委員、狩野浩之委員、小野賢委員
　　矢島貢委員、齋藤亮一委員、結城啓之委員、下山祐樹委員
欠　席　菅谷美沙都委員、山田千広委員

１　開会

２　あいさつ　（三好教育長）

・先日、スポーツ協会の表彰式に参加した。学校外での多様なスポーツ活動があるということを改めて感じた。
・スポーツ協会が立場や取組の違いはあるが幅広く応接する。子供たちに光を当てていただいていることにありがたく思った次第である。
・スポーツ振興を推進する中で、学校の部活動がどうあるべきか考えていく必要がある。
・様々な立場の方から力をお借りしながら、部活動地域移行を進めていかなければならないと決意した。
・学校教育で行うべきことは子供たちの生涯スポーツの礎を築くこと。生涯にわたってスポーツに親しむ子供を育てる。この点については、部活動を考える際に、忘れてはならない。
・教員の多忙化、教員不足の問題、ＩＣＴの活用、外国籍児童生徒への指導、発達特性のある子供たちへの教育など教育課題が山積している中で、土日に先生方が部活動の指導にあたるのは限界を超えており、教員が本来あたるべき業務が揺らぎかねない状況である。
・部活動地域移行の検討においては、まず土日に教員が部活動に携わらなくても済むようにする。スピード感をもって取り組まなければ、学校教育そのものが危機的な状況になる。中学校の教員の働き方改革においては、部活動地域移行が肝である。
・部活動の地域移行は、長期的な課題であり、財源や人材の確保等について、皆様方のこれまでの見識、経験をいただければありがたい。
・お願いばかりで恐縮ではあるが、本日の検討委員会において忌憚のないご意見をいただきたい。

３　協議

（事務局）

・軟式野球モデル事業の報告

・令和６年度の部活動地域移行に向けて

（委員）

・部活動地域校のモデル事業として、境地区の中学校で軟式野球の合同部活動を行った。この合同部活動を切り口として解決策を考えてみることを事務局に提案をした。将来的には、受け皿となる団体を新たに設立していく。初めから新団体の設立はハードルが高いので、橋渡しになるような活動として、合同部活動は一つのやり方として適していると考える。穏やかに移行する役割を果たす可能性があると境地区の軟式野球のモデル事業を見て感じた。

・合同部活動であれば、部活動の範囲のなので子供がけがをした時は、日本スポーツ振興センターの対象となる。

・先生方は既存の指導手当をもらいながら、徐々に国や県の補助金を活用しながら地域の活動に移すことができればよい。

・各校とも生徒数が減少し、部の存続が厳しくなってきている。合同部活動という制度を活用することで、子供たちの活動の場が確保できる。また、部活動数を減らさなければならない中で、合同部活動の制度があれば、部活動数の整理がしやすくなるという側面もある。

（委員）

・モデル事業について、参加をした子供、保護者にとって、大変いい機会になった。

・将来的に、境地区は、現状の部活動を維持していくことが困難である。

・実施主体をいつ、どのように地域に移していくかが大切である。

・合同部活動では、他校の生徒も指導しなければならない。生徒との関わり方や連絡方法等について丁寧に進めていく必要ある。

・生徒の移動も含め、安全の確保、指導の専門性に課題があり、情報等の共有を確実に行っていくことが大切である。

・合同部活動の仕組みについては、境地区３校にこだわらない柔軟性をもたせたほうがよい。

（委員）

・土日の部活動について、合同部活動で進めていく方法はよい。

・職員に対しては、合同部活動の方法は土日の部活動を軽減する一手だと説明するとともに、大会参加と分けて考えていくことを伝えていく。

・現在、本校の柔道部が二中と平日に合同で練習をしている。一緒に交流をして練習している様子を見ていると、多くのメリットがあると感じる。

・今後、周知の仕方や検討の進め方が課題になる。
・地域の受け皿や指導者の確保についても整理していけるとよい。
（委員）
・他校の生徒を預かる負担や責任感は重い。
（委員）
・最終的なゴールは一般社団法人化をする。そのゴールをしっかりイメージするかしないかで話の進み方が変わってくると思う。
（委員）
・合同部活動を切り口としていくのはよい。
・最終的に一般社団法人化していくことについて、学校サイドからだとわかりにくい部分があるので、いろいろなお立場からご意見を伺いたい。
（委員）
・持続可能な部活動地域移行を進めていくという点で、法人化していくのはベストな方法だと考える。事故等が生じた時に、任意団体では何もできない。補償もできない。個人が責任を負わされることになる。
・競技団体もどんどん法人化が進んでいる。
（会長）
・土日に同じ地区で合同で活動していく際、指導者と財源が課題になる。
・他校から生徒を受け入れる際、課題等について、学校間でクリアにしていかないと話が進まない。
・各競技団体が行っている教室を成長させて地域移行型にしていければ良い。
・生徒と保護者への部活動地域移行の説明をしっかりしていく。
（委員）
・法人化がゴールなら、部活動がなくなるのか、部活動と地域クラブが平行していくのかわからない。
・部活動はなくし、授業の１コマにクラブ活動をつくる。そこにしか教員は関わらないとしたほうがすっきりする。
・学校では多様なスポーツの機会を提供。もっとやりたい子はクラブへ行く。
・部活動がどこに進むか示してほしい。
（委員）
・保護者の立場からすると、子どもが安全安心に興味のあることにチャレンジできる機会を持てることは大事なこと。
・境地区は、スポーツを選択する場が少ない。地域に子供たちが自由に選んで活動する場が少なくなっている。
・社会体育で、大人といっしょに子供が活動できるように、間口を広げていきたい。子供たちにスポーツをする機会を与えてほしい。

（委員）
・今の生徒数をそのまま地域へというのは難しい。
・部活動数のバランスを整えていく。
・クラブでは活躍できない子でも部活動では試合に出場できる。そういう意味では部活動でもメリットはある。
・合同部活動という言葉は中体連では大会に参加するための一つの手段という捉えになる。
・今回は合同で練習するという意味合いで、進めていく中で大会参加につながってくものもあると思う。
・今は、月に何回かの合同部活で学校外の指導者を入れることでどのような影響が出るか模索している段階。
・専門的な指導が受けられれば、参加したい生徒はいると思う。いろいろなモデルを立ち上げて紹介してもらいたい。
・合同部活動にすることで、今まで同じ学校の仲間だけでやってきた枠がなくなり、様々な経験できることはよい。
（委員）
・合同部活動という言葉は使わないほうがよいかもしれない。
・教員の中には、部活動指導に積極的な人もいる。兼業兼職で手伝ってもらうためにルール作りを進めていく。
・行政が関わる法人をどう作っていくか、先行事例について研究を進めたほうがよい。
（委員）
・クラブも指導者探しに苦労している。部活動指導をしたい先生もいるはず。副業として認め、やりがいのためにクラブのコーチになれるように。
（委員）
・中学３年生が引退後も参加できるようにすることが、生涯スポーツにつながる。
・３校に１つクラブを設立するとよい。
・学校の施設については、地域が管理をし、学校が借りるという発想も一つだと考える。
・小学生から大人までが参加できるスポーツ団体が理想である。大人から会費を徴収することで、公的資金に頼らなくて済む。
・地域でできるスポーツを選択できるようにしていく。
（委員）
・合同部活動、法人化、兼業兼職を進めていくにあたって、社会の認識と教員の認識を変えていかないと進まない。
・教員が生涯スポーツの視点で部活動を捉えていかなければならない。
・部活動の意義を理解し、部活動に携わっている教員の存在を認識していく必要があ

る。

（委員）

・教員が地域の指導者として携われば、転勤等は関係ない。

（委員）

・学校現場の教員と競技団体とがもっと連携を取れるとよい。

・競技団体が行っているスポーツ教室を受け皿に合同部活動をやる。そういう形もあると知っていただけるとよい。

（委員）

・地域の部活動を支える人材をどのように担保していくか。兼業兼職として教員、退職教員、地域団体のスポーツ指導者、総合型スポーツクラブの関係者、保護者、大学の活用、認証制度を推進していく必要がある。

（委員）

・お金の流れを作っていくことは地域移行を進めるうえで重要。合同部活動に携わる人たちにどうお金が渡るか。来年度検証していけるとよい。

４　諸連絡

（委員）

・「群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」の中毛ブロック研修会について

（事務局）

・伊勢崎らしい、伊勢崎にしかできない地域移行を進めていく。

・令和６年度についても検討委員会を実施していく。委員、内容、会議の持ち方など詳細については、改めて依頼と連絡をさせていただく。

５　閉会